

最後の文章（引退をしていく生徒達へ）

平成9年度

新人戦 夏の中体連大会終了後、苦しいきつい夏休みの練習が始まった。新人戦東海大会出場を目標に1・2年生ともよく頑張った活動をしたと思います。1・2年生の良いところは、くじけず忍耐力を持って挑戦すること。泣き言を言わずに黙々と努力していた。そしてチームワークがよいこと。どんなに苦しくても仲間がいることで笑みがあふれ頑張り耐えることができた。きっと仲間の良さを知ることができたと思う。苦しい試合や時もあったが切り抜けてきたのは、ともに研ぎあえる仲間がいたからだと思う。子供達がこの数カ月の間に何を吸収し、何を考え何を感じ、成長したのかたのもしい限りである。最後に、練習試合の時や朝練等父兄にはたいへん御迷惑をおかけました。本当にありがとうございました。今後とも長田南中学校ソフトボール部の活動にご理解とご協力を宜しくお願いします。



祝 東海大会出場

ごくろうさま。よく頑張ったね。

感動をありがとう。

中体連 今年の3年生はよく頑張ったついてきた子たちであった。まじめに取り組んでいる姿がよく見られた。新チームとなり、目標を東海大会において夏の練習を行った。多少無理のある目標であったが、実現させてしまったこの子供達にはびっくりさせられる。雨の東海大会は残念であった。もっとコンディションの良い時にやらせてあげたかった。幾度かチームをトラブルや、アクシデントがおそってきたが、チームワークの良さで解決をしてきた。やはり友達・仲間とはいいものなんだろう。

この子供達には、まじめさがあった。そして謙虚さがあり、チームの雰囲気を作り出していた。それが新人戦や、中体連での好成績に現れている。やはり、我慢するときは我慢をして、耐えて取り組む姿勢が神様に認められ味方をしてくれたのだろう。きちんとまじめに取り組めば、よいことがあるという事を結果で証明してくれた。これからもそういう世の中・人生を歩んでもらいたいものだ。

しかし、中体連大会は壮絶な戦いであった。市大会、1回戦コールド負けをして地獄の敗者戦へ。そして市5位で中部大会へ。中部大会準決勝：対金谷戦 99%勝利を確信したが延長戦で敗退。とても大切なことを教わった気がする。人の弱さ、そしてこの状況での対処の仕方など、今後の人生において生かしていかなければならないことが勉強できた気がする。とてもいい経験であった。ひとまわり人として大きく成長できた気がする。

県大会では、とてもいい姿勢で試合に臨んでいた。優勝候補の一角である浜松富塚中との戦いにおいて、自信をもつ

て堂々と戦うことができた。それが奇跡的な勝利を呼び込だと思う。心の勝利であった。人として大きな心とチームワークの気持ちで戦うことができたからだ。集中力もあり素晴らしい試合であった。大きく心が成長することができた。準決勝対御前崎中戦は20連敗中と言うことではあったが、この子達を何とか勝たせてあげたいと思ったが正直確率は悪かった。しかし全力で戦うこと、最後まであきらめないこと、仲間で助け合うなど長南らしい粘りをもって何とか勝つことができた。試合中も先生の話をしっかり和落ちて聞くことができたことが大きかった。勝った瞬間は飛び上がった喜びであった。祝東海大会出場決定であった。決勝戦対沼津原中戦は、緊迫した試合となり先行され苦しくなった。最終回にさよなら逆転優勝2ランホームランさすが部長荒井さんみんなと抱き合って喜んだ。県大会優勝の瞬間であった。もうドラマのような試合であったが、やはり長南らしい粘りのある試合で、神様は地道に努力をし、まじめに取り組む仲間達に勝利を与えた。中体連のメダルは、重たく価値あるものであった。県大会は、緊張と感動そして思い出深い貴重な体験となった。そして子供達は、大きく成長してたくましくなった。きっと人生の中でも活かして生きていけると思った。

東海大会ではまず1回戦苦戦しながらも勝利。体調を崩す子もいたが精神的なものであり、みんなが（先生を含めて）緊張に耐えて戦った。下級生の応援に助けられた試合であった。2回戦恵那東中、あと一勝で全国大会へ行けるが恵那東には、春大差で負けている強敵であった。準備してやることはやって試合に臨んだが、調子・ムードに乗れずに敗戦。全国大会は夢と消えた。あと一步の所まで来たのに……。悔いはない夏だった。

しかし、この子達はよく頑張ったと思う。真面目で、ねばり強く、謙虚な姿が、自分達の実力以上の（失礼）結果を残したのであろう。春夏東海大会出場。中体連県大会優勝。東海大会第三位。本当に予想以上の活躍であった。後輩にも素晴らしい体験をさせることができた。本当にありがたいことである。毎年思うが、この子達と別れるのがつらい。まだまだ一緒に活動したいがお別れである。今後の活躍を祈っている。ごくろうさまでした

父母会の方々には大変お世話になりました。運営の面で多くの問題もあったと思いますが、みなさんのご協力とご理解により、3年生を送り出すことができました。ありがとうございました。子供達の素晴らしい成長を心からうれしく思い、今後の人生に生かして行ってほしいと思います。親子としてこれからの生活・人生を頑張ってください。ありがとうございました。 静岡市立長田南中学校ソフトボール部 顧問 山本秀樹

苦しみは三年、喜びは一瞬、思い出は一生

仲間作りと思い出作り

感動をありがとう！ ごくろうさまでした。

平成10年度

新人戦 県大会 優勝 東海大会準優勝

中体連 県大会 優勝 東海大会第三位

感動をありがとう！ ごくろうさまでした

今年のチームはよく頑張ったチームであった。先生の経験の中でも屈指のチームであった。それは技術面だけでなくチームとして総合力がすばらしかった。そんなすばらしいチームに作り上げてくれたみんなに感謝をしたい。

しかし最初から最高のチームとしてスタートしたわけではなかった。技術的には上手であり、エース花木も残り昨年よりも力は完全に上であったが、欠けていたものがあつた。それは心の面で、正確さに欠け、荒くなり緻密さに欠けることであつた。高度な技術面に強い精神力が備われば最強のチームになると思っていた。つまりこの学年の目標は最初から全国を目指せる資質があつたと思う。よって精神面を鍛えることをおこなつた。強くても勝てるはずがないと気を引き締めた。心のことばかりを言ってきた。その事は子供にとっては苦痛ではあつたがそれをはねのける力は充分あり、



第11回 静岡県中学校新人ソフトボール大会 平成10年11月27日 於：長岡崎中学校

ぐんぐんと前進し先生についてきた。それはこの子達のパワーを見れば明らかなことであり、先生の計算どおりであつたある程度の力をつけて臨んだ新人戦。南部大会、市大会、中部大会全て準優勝で準優勝の長南と言われ勝てない苦しさを味わつた。しかしその事が後に役に立つた。しかしその中で新村のアクシデントがあり、先生をはじめ全員の目の前が真っ暗になった。そして涙のミーティングを行い、長南は必勝モードに突入し、新村さんを東海大会に連れて行く事に全力を注いだ。新人戦準決勝苦しかったが勝利し東海大会出場決定。目標は達成安堵感を感じながら決勝戦勝利、初めてのメダルは大きくて重くて感動的であつた。苦しいところを通過してきたから喜びもなおさらであつた。試合後の昼食は、久しぶりに心やすまる昼食であつた。やはり栄光・喜びは与えられるものではなく、苦勞をして努力をして自分達の力でつかみ取るものであることを学習した。子供達の成長と安堵感を感じた。すばらしい子供達だ。冬の練習の新しい目標を持って行つた。素振り表をしっかりとできなかったことは残念であつたが、努力の跡が見られた。その他の大会で優勝、優勝旗は4本カップは2つある。他の人は楽に考えるかもしれないが大変なことですばらしいことであると思う。

子供達が全国大会に出たいと言ひ出した（やっ自分達から）。出場するためには優勝するつもりでなければ無理と言うことで目標は全国制覇となつた。中体連が始まつた。テーマは「全員で取り組む中体連」一人一人がそれぞれの役割を一生懸命果たすことであつた。おかげでベンチも一体となつて戦うことができた。本当にベンチにいる子供のおかげで勝たせてもらったと思う。市大会、中部大会、県大会優勝。全国が近づいてきたが1戦1戦が勝負であつた。東海大会1回戦は力が出なく落ち着いていながつた。珍しく先生も大会で叱つている。次は全国をかけたの試合、喝を入

れた。子供達も最後の練習に力が入る。勝つか負けるかわからない、いざ勝負。試合は緊張のためかミスがあったが試合には付き物で仕方がない。最終回守りきれば全国という所で逆転された。最後のノック、キャッチボール、ミーティングは今でも忘れられないものとなった。悔いはなかった。結果は新人戦県大会優勝東海大会準優勝。中体連県大会優勝東海大会第三位。本当に素晴らしい結果だ。後輩にも素晴らしい体験をさせることができた。本当にありがたいことである。毎年思うが、この子供達と別れるのがつらい。まだまだ一緒に活動したいがお別れである。今後の活躍を祈っている。ごくろうさまでした。

父母会の方々には大変お世話になりました。運営の面で多くの問題もあったと思いますが、みなさんのご協力とご理解により、3年生を送り出すことができました。ありがとうございました。子供達の素晴らしい成長を心からうれしく思い、今後の人生に生かして行ってほしいと思います。親子としてこれからの生活・人生を頑張ってください。ありがとうございました。 静岡市立長田南中学校ソフトボール部 顧問 山本秀樹

全国が見えたその時 逃げていく
されど悔いなし ひと夏の夢。

平成13年度

「人間は変わることができる。」ことを証明した7月後半から11月前半の4ヶ月間であった。3年生が引退したときから始まった苦しい夏休みの練習。とても苦しく何回か倒れそうになった。先生と生徒の意地の張り合い。生徒には負けないと言う気持ちで気合いが入った。この夏を乗り越えなければ、この子供達は変わることができない。そんな思いで夏を乗り越えた。その後の試合は負けばかり。試合をしても負けて、また負けた。相手を変えれば勝つことはできたかもしれないが、自分としては妥協ができなかった。どうしてもどうしてもという気持ちがあり、妥協することができなかった。妥協していたら、この子供達は変わることはなかったことだろう。勝ちたい、勝たせたい、勝たせてあげたい。自分の気持ちもそんな思いに変化していった。どんなことがあっても食いついてくる生徒達と共に戦う。中学生生活学習に妥協を許さない、生き方の戦い。どうしたら自分たちを高めることができるのか。常に考えていたことであった。県大会は、行けそうで行けなかった。それもいい勉強となった。しかしやるだけはやったので、仕方がないと観念した。生徒はよく戦った。自分との戦いをあきらめなかった。これからの人生で、生徒がどれだけ自分を変えられるか、楽しみである。これからも、子供達とかかわっていきたくてまた強く思った。父母会の方々には、大変お世話になりました。これからもよろしくお願いします。

